オタク達の日常・序～開幕する世界～

ワシン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
オタク達の日常・序～開幕する世界～

【Ｎコード】
Ｎ９４８３Ｙ

【作者名】
ワシン

【あらすじ】
ほのぼのとギャグに、恋愛とバトルを足した
オタク達の日常を描いた世界の話です
バトルシーンが少し多めですが、
少しでも楽しんでもあえたら嬉しいです

～プロローグ～

～プロローグ～

◆？？？◆

？？？「君と出会った日からすでに
2人の物語は始まっていたんだ
恋なのか友情なのか分からない

月日が経てば経つほど答えが近くなるよ

あなたは私のことどう思ってるの
私達は気持ちを確かめ合った
その答えは相思相愛だったよ

2人の物語は愛が結ばれて
終幕する・・・終幕するよ」

そう、これは2人の恋の物語。
ほのぼのとギャグに、恋愛とバトルを足した
オタク達の日常を描いた世界の話なの。
～プロローグ・完～

第1話～オタク部～

◇オタク部の部室◇
ガチャッ
？？？「あれ？皆まだなんだ」
？？？「そうみたいだなー」
僕の名前は、草原椿（くさはらつばき）。
１６歳の高校２年生だ。
僕の隣に居るのが、同じクラスで幼なじみの、秋枝紅葉（あきえだこうよう）。
何かと、僕の世話をやきたがるんだ。
嬉しいけど、本人には恥ずかしいから言わないけどね。
今、僕達は部活をするためにまだ、誰も居ない部室に来て
他の部員達が来るのを、待った。
そして、それから１０分経って
約1名と、顧問を除いた部員達が揃った。
？？？「さぁ、今回も楽しい部活を始めるわよぉ！」
椿「今日は、何しますか？」
？？？「そうねぇ、じゃぁ雑談にしましょう！」
僕の問いに、この人・・・オタク部創設者兼初代部長の
天草蓮華（あまつきれんか）先輩は、そう答えた。
椿「いつも通りですね～」
？？？「まぁ、良いじゃないですか
　　いろんな話が出来て、楽しくて好きですよ」
僕の言葉に、後輩の春野桜花（はるのおうか）は笑顔で答えた。
蓮華「そうよぉ、楽しく過ごせるなら何だって良いじゃなぁい
　　ツバツバのツンは、相変わらず健在ねぇ」
椿「べ、別にツンなんかじゃないですし！
　　そ、それと変なあだ名で呼ぶのは、やめて下さいよ！」
蓮華「あらぁ、ツバツバ可愛いじゃなぁい

ねぇ、２人ともぉ？」
蓮華先輩の問いに、２人は――――――
紅葉「はい」
桜花「右に同じです」
と、答えにたいして僕は――――――
椿「嘘だッ！！！」
と、返した。
蓮華「生〇会の〇存の、生徒会副会長言ってたわよぉ
今は、ひ〇らしよりか、う〇ねこだって」
紅葉「そうだぞー、ほら
蜂蜜金柑のどアメあげるから機嫌直せよー」
椿「わぁ、ありがとう～」
紅葉から貰った、アメを口に入れた僕は――――――
椿「って、何でやねん！」
思いっきり、ツッコンだ。
桜花「ナイス、ツッコミです先輩！」
蓮華「良く出来たわねぇ～」
紅葉「偉いぞー」
椿「もう、何なんだよ～
バカなの？！死ぬの？！」
３人「「「ハハハハハwww」」」
まぁ、そんなこんなでも充分楽しいし、居心地も良いから
この部員の皆との時間を、大切にしたい。
それから、僕達が通ってる学園について、説明しておこう。
学園の名前は、良縁学園（りょうえんがくえん）だ。
名前の由来は、初代校長がこの学園で良い縁を築いていけるように
って、
気持ちを込めて名付けたんだ。

第2話～桔梗の危機～

第2話～桔梗の危機～
◇？？？？◇
？？？「さてと、もうすぐゲームの開幕だ
　　楽しみね、あはははははｗｗｗ」
まずは、あの人がどう出るかだね。
？？？「しかし、上手く行きますかね？」
？？？「絶対に来る、あの人はそういう人だよ」
？？？「自信あるんですね」
？？？「あるよ、だってあの人のこと良く分かってるから」
？？？「そうですか」
そして、アンタ達は用済みだ、あはははは。
◇オタク部の部室◇
桜花「皆さんが揃ってから、３０分は経つのに
　　桔梗先輩、遅いですね～」
紅葉「まだ、掃除終わらないのかなー？」
椿「いやぁ、さすがにもう終わってるやろ～
　　多分、今はこっちに向かってる最中だと思う
　　にしてもアイツ、勉強と放課後の掃除キライだからなぁ～」
蓮華「アハハ、あの娘らしいわねぇｗｗｗ」
ピンポンパンポーン
？？？「放送委員からの連絡です！
　　今さきほど、校内に不審者が3人ほど侵入して来たようです！
　　先生達が巡回しているので、残ってる生徒は至急、安全な場所に
　　隠れるなり教室などにいてる生徒は、鍵を閉めて身を守って下さい

警察には、通報しましたので警察の方々が来れば、安全です」
プツンッ
椿「不審者3人組だってよ、コワイなぁ～」
紅葉「何言ってんだよー、もし不審者が来ても椿なら大丈夫だろー」
桜花「椿先輩、強いですしね～
校内中の先生と生徒全員のお墨付きですもん」
蓮華「そうよ――――」
???「キャァァァァァーッ！！」
オタク部一同「「「「ッ！？」」」」
桜花「何ッ？！」
椿「あの声、桔梗かッ？！」
蓮華「廊下からだわ！！」
紅葉「もしかして、不審者3人組に遭遇したのかッ？！」
椿「僕、行って来る！！」
◇廊下◇
僕は、急いで廊下に出て、声のする方へ駆け出した。
すると、そこには不審者らしき3人組に絡まれている、桔梗の姿があった。
椿「桔梗ッ！！」
桔梗「椿君ッ！！」

第3話～椿VS不審者3人組・前編～

第3話～椿VS不審者3人組・前編～
◇廊下◇
椿「・・・。」
不審者の1人は、桔梗腕を掴みながら他の2人と一緒に、僕を睨んできた。
不審者1「おぅ、チビ何見とんじゃぁッ？！」
ピクッ
不審者2「痛い目にあいたくなかったら、とっとと失せろよチービwww」
ピクッ、ピクッ
あぁーあ、コイツら人が1番気にしてるキーワードを、ずけずけと・・・。
ふん、こういう生意気な奴らを痛みつけて、泣きながら床に這いつくばって
僕に助けを求める姿を想像したら、何かゾクゾクしてきたなぁ、あはははwww
不審者3「おい、聞こえなかったのか？
早くどっかに消えろよ、今からこの娘(こ)と楽しいコトを、するんだからなぁ」
桔梗「イヤよ、離してッ！！」
椿「嫌がる女の子を、テメェらみたいなゴミクズ達が、よってたかって
見てて吐き気するんだよ、目障りなんだよ、うぜぇんだよ、キモイんだよッ！！
さっさと、その汚い手を離して帰りやがれッ！！
この、ゲロカス共がぁッ！！」
不審者1「何だとこの、チビがぁぁぁぁぁッ！！」

不審者の1人が、僕に殴りかかって来た。
椿「やれやれ、だな」
僕に殴りかかって来た、不審者の1人のパンチをよけて相手の腹に膝蹴(ひざげ)りをして、更にそのまま相手の顔を掴んでアイアンクローをした後、
相手の頬に回し蹴りを、お見舞いしてノックアウトした。
不審者の1人は、蹴り飛ばされて倒れた後、そのまま気絶状態になった。
不審者2「何だ、このチビ・・・。」
不審者3「メチャクチャ強えじゃねえか・・・。」
椿「どうした?
チビ相手に、ビビッたか?!
だったら、そこに無様(ぶざま)に倒れ込んでるゴミクズを連れて、
とっとと消え失せなッ!!」

第４話～椿ＶＳ不審者３人組・後編～

第４話～椿ＶＳ不審者３人組・後編～
◇廊下◇
不審者１「ぐッ・・・。」
椿「ん？」
ドガッ
不審者１「がはッ・・・。」
バタッ
僕は、気絶したと思った不審者の１人が起き上がろうとしたので、
とりあえず、下段回し蹴りを頬に命中させて、今度こそ気絶させた。
不審者２「ヤロォォォォォッ！！」
椿「１人ずつで、僕に勝てると思ってるのかねぇ」
２人目の不審者は、僕に蹴りかかって来た。
椿「そーれッ！！」
だけど、僕はそれを回避してそのまま、相手の股間に回し蹴りで
ダイレクトアタックした。
ドゴッ
不審者「ぬぉぎぎゅぎゅ、ぐっぎいおあやぁぁぁぁぁーッ！！」
バタッ
かなりの奇声を上げて、倒れた２人の不審者はそのまま気絶した。
その姿は滑稽（こっけい）で僕は腹を抱えるほど、大爆笑した。
椿「あはははは、はははははッ！！ｗｗｗ」
やばい、ワロスワロスｗｗｗ
不審者３「この、外道が・・・。」
椿「さてと、残るのはアンタ１人だな
　アンタは、どんな奇声や悲鳴を上げてくれるのかな？かな？」
不審者３「くそぉぉぉぉッ！！
　こんな、チビにいいいいッ！！」

残りの不審者は、桔梗の腕を掴んでいた手を離して、僕に向かって駆け出した。
その姿は、まさに校門を駆け抜けるかの如く。
椿「椿流武術・瞬影――――――」
僕は、素早い瞬間移動の如く、影の姿となりて相手の背後に回り込んで――――――
椿「後ろだよ」
不審者３「なッ――――――」
残りの不審者が、振り返るとともに――――――
椿「暴弾の嵐・蓮ッ！！」
ドガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガッ
不審者３「ぐほぉぉぉあぁぁッ！？」
そのまま、弾が暴れるがの如く不審者に四方八方、
拳や蹴りのラッシュを連続で繰り出して、完全にノックアウトした。
不審者３「がはッ・・・。」
バタッ
椿「何だ、もうこれで終わりかよ
　つまんねぇなぁ、もっと楽しませて欲しかったぞぉ」
本当、もっと楽しみたかったのに少ししか満たされなかった。
椿「よし、桔梗！
　とっとと、部室にずらかるぞ！」
桔梗「う、うん」
こうして、救出した桔梗と共に僕は急いで、部室へと駆け出した。
◇廊下の角◇
？？？「・・・。」
？？？「本当に上手くいったな」
？？？「あぁ」
？？？「そんじゃぁ、こっちも戻るとするか」
？？？「わかった」
？？？「よし、行くぞ」

第5話～桔梗との出会い・前編～

第5話～桔梗との出会い・前編～
◇オタク部の部室◇
椿「あぁ、疲れた～」
不審者達を、倒してから急いで2人で部室に戻った。
桔梗「椿君、さっきは助けてくれてありがとうね」
後、紹介遅れて今さらだけど、コイツの名前は咲道桔梗（さきみちききょう）。
僕と紅葉と同級生で、クラスも同じなんだ。
椿「別に、普段のことだから良いよ」
蓮華「あれ、ツバツバが珍しくツンデレじゃないわ」
紅葉「本当だー、大丈夫かー？」
桜花「どうしたんですか？」
椿「別に、どうもしねぇーよ」
ー桔梗視点ー
椿君、また私のこと助けてくれたなぁ。
正直、あの時みたいに嬉しかった。
確かあれは、初めて椿君と紅葉君と出会って、仲良くなった日にガラの悪い男2人組に、ナンパされてた時かな・・・。
その時は、梅田のま○だらけに行く途中だっけ・・・。
◇1年前・梅田の○通り商店街◇
桔梗「いい加減にして下さいッ！」
ナンパ男1「良いじゃん、ちょっとくらいさぁ」
ナンパ男2「そうそう、どうせ1人じゃ寂しいし退屈だろう？」
桔梗「そんなことありません！」
まぁ、別に嘘はついてないし何より、この人達から早く離れたかった。
周りの人達は、私達のやりとりを遠くから見てるだけだったり、素通りやら、見て見ぬフリばかりで、助けてすらしてくれない。

椿「嫌がる女の子を、自分達の下らない勝手な都合で
　連れ出そうとするなんて、クズ極まりないな」
桔梗「え・・・？」
ナンパ男1「あぁ？」
ナンパ男2「何だぁ？」
私とナンパ男2人組は、声のする方へ向いた。
そこには、紅葉君を連れた椿君がいたんだ。
椿「紅葉、カバン頼むね」
紅葉「了解ー」
椿「とっとと、その人から離れてどっか行きやがれッ！！
　ゲス共がッ！！」
ナンパ男1「何だと、コラァァァァッ！！」
ナンパ男2「やんのかぁぁぁぁぁッ？！」
ナンパ男2人組は、椿君に殴りかかって行った。

第6話～桔梗との出会い・後編～

第６話～桔梗との出会い・後編～
◇〇通り商店街◇
椿「やれやれ、だな」
椿君は、ため息まじりにそう言うと、殴りかかって来た
ナンパ男２人組の攻撃を回避してた。
ナンパ男１「くそッ」
ナンパ男２「ナメやがってッ」
椿「テメェらみたいな、虫ケラの穀潰(ごくつぶ)しのカス以下の雑魚の残骸の
　攻撃なんて、トロい遅い弱いヘボイ幼稚すぎて、当たるわけね
ぇだろぉ全然よぉ、なぁ？」
ナンパ男１「この、クソがぁぁぁぁぁぁッ！！」
ナンパ男２「うぉぉぉぉぉッ！！」
椿「バイバイ、椿流武術・双掌爪牙(そうしょうそうが)ッ！！」
ガッ、ガッ
◇現在・オタク部の部室◇
その後、ナンパ男２人組を倒した椿君にお礼を言って、少し話をした。
同じ学校で同級生で同じクラスってことが、分かってそれから
同じオタクってこともあり、仲良しになった。
で、一緒にまん〇らけに行ったんだよね～。
桜花「ところで、今日はもうそろそろ終わりにしませんか？」
紅葉「そうだなー、警察の人達が到着して学園に残ってるってこと
で、
　いろいろと聞かれるの面倒だしなー」
蓮華「そうねぇ、じゃぁ今日はもう部活終わりってことで、ツバツ
バと桔梗も良い？」
椿＆ａｍｐ；桔梗「「はい」」

蓮華「よぉし、本日のオタク部」
オタク部全員「「「「「終了〜♪」」」」」
椿（これって、生徒〇の一存のアニメの、パクリだよなぁ・・・。）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9483y/

オタク達の日常・序〜開幕する世界〜

2011年12月13日11時07分発行